30　次の文を読んで、後の問いに答えよ。 〈九州大〉　二〇一六年度出題

　 之 、渓 水 合 ㆓ 於 ㆒。㆓ 道 士㆒ ㆓ 於 ㆒ ㆑ 、 。一 夕、山 水 、㆓ ㆒、㆑ 而 。人 ㆑ ㆑ 、号㆐ ㆑ 者、声 也。道 士 ㆓ 大 ㆒、 、㆓ ㆒、㆓ ⓐ善㆑ ㆒ 。①人 ㆑ 索㆐㆓ ㆒、所㆓ 存㆐㆒ 。　平 旦、㆑ 獣 身 ㆓ 波 ㆒ 而 ㆓ ㆒、左 右 　　 ⓑ若㆓ ㆑ ㆒。②道 士 、「 ㆑ 生、 　㆑ 。」 者 ㆑ 、㆑ ㆐㆓ ㆒、ⓒ乃 虎 也。 朦 朦 、 而 ㆓ ㆒。㆑ ㆑ 、 ㆑ 視㆓ 道 ㆒、 而 ㆑ 、㆑ 。舟 人 、③道 士 得㆑不㆑ 死、而 重 傷 焉。

　郁 離 子 、「④ 。 道 士 之 也。⑤知㆓其 非㆒㆑ 人 而 救㆑ 之、非㆓ 道 士 之 過㆒ 乎。 ⓓ雖㆑ 然、孔 子 、『㆑ ㆑ 矣。』道 士 ㆑ 。」

（明・劉基『郁離子』による）

（備考）この文には、設問の都合で送り仮名を省いたところがある。

（注）蒼筤之山＝青々と若竹の生い繁った山。

道士＝道教または仏教の僧。

築＝建造物をつくる。

室廬＝家屋。

号呼＝大声で叫ぶ。

蓑笠＝みのとかさ。

督＝指揮して統率すること。

俟＝待ちうけること。

索引＝縄をつけて引っ張る。

平旦＝明け方。

左右盼＝左右を見る。

舟者＝船頭。

朦朦然＝気持ちや頭がぼんやりするさま。

攫＝つめで獲物に襲いかかる。　　郁離子＝ここでは作者の自称。

「観過斯知仁矣。」＝『論語』里仁篇の一節。「あやまちを見れば、その人に仁があるかどうかがわかるものだ。」の意。

問１　傍線部①「人至即投木索引之、所存活甚衆。」を、すべてひらがなで書き下し文に改めよ（現代仮名づかいでもよい）。

問２　傍線部②「道士曰、『是亦有生、必速救之。』」について、道士がこのように言って救ったものは、最初どのような様子で、その後どうしたのか、主語を明らかにしてわかりやすく説明せよ。

問３　傍線部③「道士得不死、而重傷焉。」を、書き下し文に改めよ（現代仮名づかいでもよい）。

問４　傍線部④「哀哉」について、作者は何をいたましいことだと嘆いているのか、三十字以内で記せ。

問５　傍線部⑤「知其非人而救之、非道士之過乎。」について、

（１）書き下し文に改めよ（現代仮名づかいでもよい）。

（２）わかりやすく解釈せよ。

◎問６　道士の行いに対する作者の考えはどのようなものか、七十字以内で記せ。

問７　波線部ⓐ「善」、ⓑ「若」、ⓒ「乃」、ⓓ「雖然」の読み方を、送り仮名も含めてすべてひらがなで記せ（現代仮名づかいでもよい）。

【解答と採点基準】

問１　ひといたればすなちきをとうじこれをさくいんし、そんつするところはなはだおし。

問２　Ａ助けられた当初、Ｂぼんやりと座り込み毛繕いしていた虎は、Ｃ舟が川岸に着く頃、Ｄ道士をにらみつけて躍りかかり、つめで襲い押し倒した。

Ａ＝２〔具体的な動作を省略し、「当初」「最初」などでも可。〕

Ｂ＝３〔「虎は」のないものは０。「毛繕いしていた」は「毛を舐

めていた」なども可。〕

Ｃ＝２〔具体的な動きを省略し、「その後」などでも可。ただし「時

間の経過」がわかるように書かれていることが必要。〕

Ｄ＝３〔「道士を」のないものは０。「にらみつけて」は「目を見

開いて」なども可。〕

問３　道士死せざるを得れど（も）、重傷なり。

問４　Ａ道士が、Ｂ助け上げた虎に襲いかかられて Ｃ重傷を負ったこと。（27字）

Ａ＝２

Ｂ＝４〔Ｃの原因として書かれていることが必要。〕

Ｃ＝４〔Ｃのないものは全体０。〕

問５　（１）＝其の人に非ざるを知りて之を救は、道士の過ちに非ずや。

　　　（２）＝Ａ押し流されてきたのが人ではないことを知りながら Ｂその獣を助けたのは、Ｃ道士の過ちではないか。

Ａ＝３〔「押し流されてきた」はなくても可。「人ではない」は「獣

である」などでも可。ただし、虎だと気づいたのは助け上げた後

なので「虎である」としたものは０。〕

Ｂ＝３〔「その獣」は「人ではないもの」なども可。ただし「虎」

としたものは０。〕

Ｃ＝４〔「過ち」は「失敗」「過失」などでも可。「…過ちではな

いか。もちろん、過ちだ。」と書いてもよい。〕

問６　Ａ人ではないことを知りながら助け、逆に危険を招いたのは確かに道士の過ちだ。だが、Ｂ危険を顧みず危急を救う行動から、Ｃ道士には仁があると考えている。（70字）

Ａ＝３〔「人ではないとわかっていて助け、逆に危ない目に遭った

のは道士の責任だ」という意が書けていればよい。ただし「虎だ

と気づいて助けた」という意味を含んだものは０。〕

Ｂ＝３〔Ｃの理由として書かれていることが必要。「危ないかもし

れないのに助けた」という意が書けていればよい。〕

Ｃ＝４〔Ｃのないものは全体０。〕

問７　ⓐ＝よくする　　ⓑ＝ごとし

　　　ⓒ＝すなち　　ⓓ＝しかりといども

【書き下し文】

　のは、してにる。りのにきててにふること、だたり。、いにで、をはせ、をぎてる。にりにり、してひをむる、ひなるなり。道士をへ、らきて、のにち、水を問７ⓐくする者をしもて以てつ。問１人ればち木をじをし、するだし。、有りのにして其のをかべ、みることひを求むる者の問７ⓑごとし。道士く、「れた有り、ずやかに之を救はん。」と。舟する者にじてき、木を以て之をへぐるに、問７ⓒちなり。めはちとして、して其のをむ。にぶひ、則ちをりて道士を、りて之をみ、にせり。り救ひ、問３道士せざるをれど（も）、なり。

　曰く、「しいかな。是れ亦た道士のちなり。問５（１）其の人にざるをりて之を救ふは、道士の過ちに非ずや。問７ⓓりとも、曰く、『過ちをてにを知る。』と。道士れ有り。」と。

【現代語訳】

　青々と若竹の生い繁った山は、谷川の水が合わさって、大きな川に流れ込んでいる（所にある）。その山の上に（寺を）建て、とてもまじめに仏に仕える僧がいた。ある晩、山から水が大量に流れ出し、家屋を押し流して、谷川を塞ぐように流れ落ちた。人々は木にまたがったり屋根によじ登ったりして、大声で叫び助けを求める者の声が重なり合った。道士は大きな舟を用意し、自分自身もみのとかさを着けて、川のほとりに立ち、水によく慣れ親しんだ者を指揮して統率して縄を持って待ちうけた。人が流されてくればすぐに木を投げ入れてその人を木に結わえた縄で引っ張り上げ、助けあげた人数はとても多かった。明け方、ある獣がその体を川波の中に沈め頭だけを水の上に出して、左右を見回している様子は助けを求めている者のようであった。道士は言った、「これもやはり生きている者だ、必ず速やかにこの獣を助けてやろう。」と。船頭は（道士の）言葉に従って進み、木を使ってこの獣を助け上げたところ、虎であった。始めのうちはぼんやりとして、座り込み、毛繕いをしていた。（舟が）川岸に着く頃、（虎は）目を大きく見開いて道士をにらみ、躍りかかって道士をつめで襲い、地面に押し倒した。船頭が走り寄って助け出し、道士は死なずに済んだが、重傷である。

　私（郁離子）は言った、「哀しいことだなあ。これはやはり道士の過ちなのだ。問５（２）人ではないと知りながらその獣を救い出したことは、道士の過ちではないか。（もちろん、道士の過ちである。）しかしながら、孔子は言っている、『過ちを見れば、その人に仁があるかどうかがわかるものだ。』と。この道士には仁があるのだ。」と。